濃尾地震の今昔について*

太　田　芳　夫**

550.342

§1. はじめに

濃尾地震は東海地方，わけても岐阜，名古屋地方には希有の大地震であったが，地震のあった明治24年10月28日の年代はすでに古く，当時を経験した古老も次第に少なくなり，記載文書も散逸しがちであるので，当時の災害を記載した文書も一応整理し，併せて現在の資料を検討して当時の惨状を偲び，今後の参考としたい．

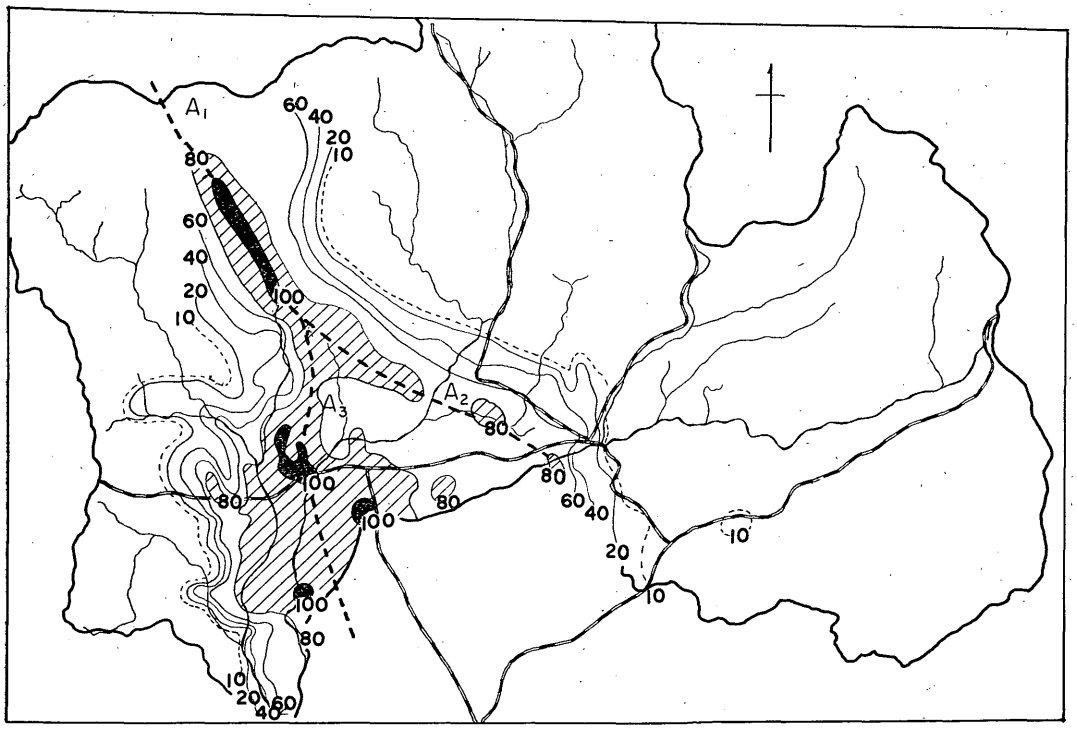
§2. 地震考

（1） 濃尾地震時の家屋の倒壊　大震報告[1]による旧行政区画の岐阜県内家屋倒壊率は第1図で，根尾谷から南に延び羽島をとおり名古屋にぬけるA_1—A_3の線と，本巣町から伊自良，高富を経て関をとおり帷子に終るA_1—A_2の線の付近が最も激甚地区である．同図には倒壊率80%以上の地域を斜線で示した．

（2） 地震帯，近年（1926～1960）に起った顕著な地震の震源を，地震月報から拾うと，その分布は第2図のようになる．

（根尾地震帯）第2図　A_1—A_2ないし，A_1—A_3の線上に分布されるが，A_1—A_2を延長するとA_2—A_4とらり，岐阜県と愛知県の県境の矢作川上流の地震帯につながる．さらに，この線を北に延長すると，福井県側の福井地震帯につながる，ことはすでに知られた[2]とおりである．

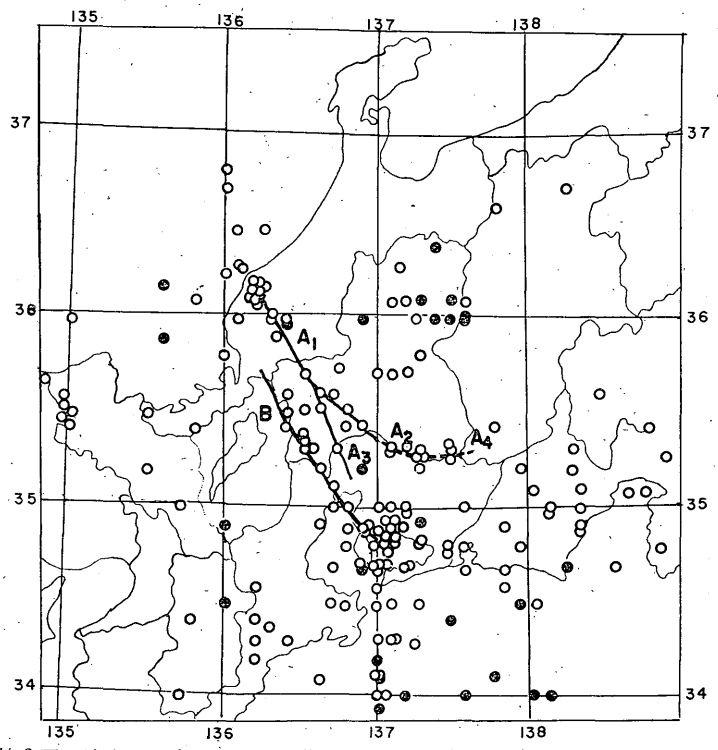
（西濃地震帯）第2図Bで示した線で，敦賀湾から



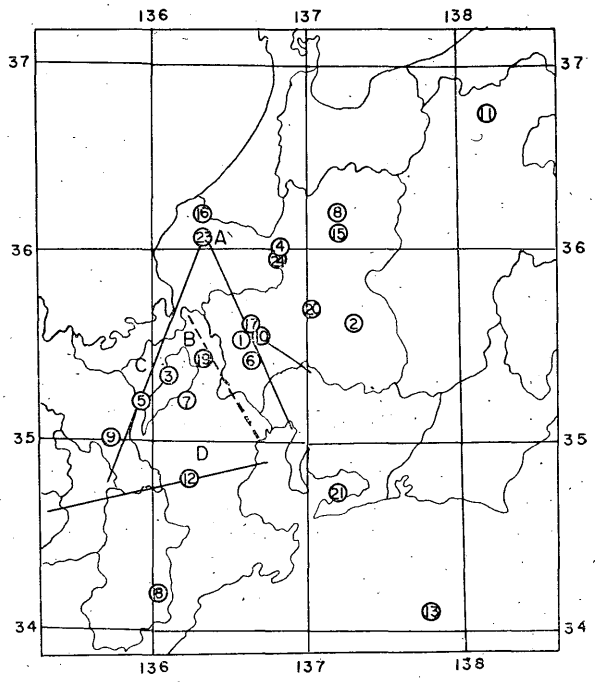
第1図　濃尾地震による家屋倒壊率（数字%）分布旧行政区画による市町村単位
（ただし震源地付近は除く）

* Y.. Ota : On the Earthquake of Nobi, 1891 (Received May 10, 1968)

** 富山地方気象台



第2図　岐阜県を中心とする顕著な震央分布（1926～1956）
（白丸は100km以内，黒丸は100km以上の深さただし遠方のものは一部削除）



第3図　岐阜県下に被害のあった大地震の震央（番号は第1表と対応）

滋賀県北東部を通り，関が原から木曽川河口にぬける．この線の延長上に三河地震の震央がある．

（古往の大地震の震源）在来の文書[3][4]から岐阜県内に災害を起した地震の推定震央は第3図であって，これの起時および規模を第1表に示す．

第1表　岐阜県に災害のあった大地震
（番号は第3図に対応）

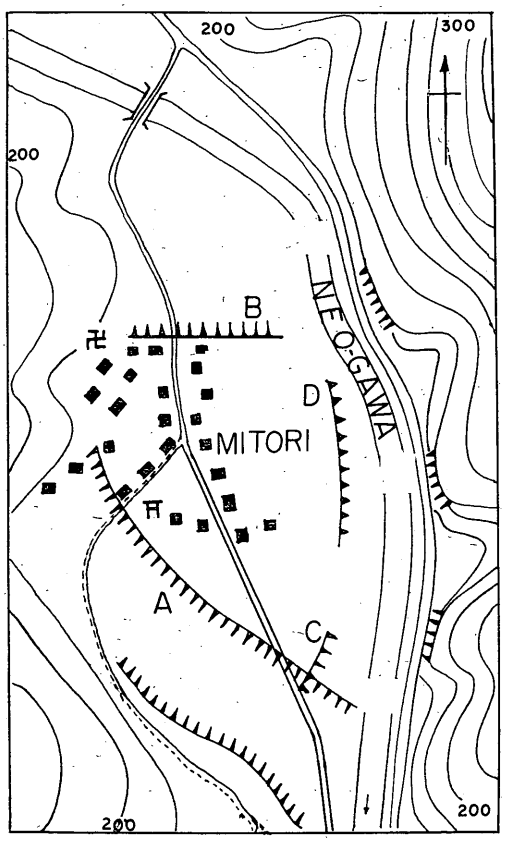
番号	年　月　日	西暦	規模	地震名
1	天平 17. 4.27	745	7.9	
2	天平，宝字6. 5. 9	762	704	
3	文治 1. 7. 9	1185	7.4	
4	天正 13.11.29	1586	7.9	
5	宝永 4.10. 4	1707	8.4	
6	正徳 4.12.27	1715	6.2	
7	文政 2. 6.12	1819	7.4	
8	〃 9. 7.25	1826	6.2	
9	天保 1. 7. 3	1830	6.4	
10	〃 4. 4. 9	1833	6.4	
11	弘化 4. 3.24	1847	7.4	善光寺
12	安政1. 6.13—15	1854	6.9	
13	〃 1.11. 4	〃	8.4	
14	〃 1.11. 5	〃	8.4	
15	〃 5. 2.26	1858	6.9	
16	〃 〃	〃	〃	
17	明治 24.10.24	1891	8.4	濃尾
18	〃 32. 3. 7	1899	6.6	山城
19	〃 42. 8.14	1909	6.9	姉川
20	昭和 9. 9.18	1934	6.2	八幡
21	〃 20. 1.13	1945	6.9	三河
22	〃 21.12.21	1946	8.1	南海道
23	〃 23. 6.28	1948	7.3	福井
24	〃 36. 8.19	1961	7.2	北美濃

大森博士による[5]第3図のAおよびBの線上では第2図のように近年は可成り活発な地震活動があるが，CおよびD線上では，余り地震を見ない．

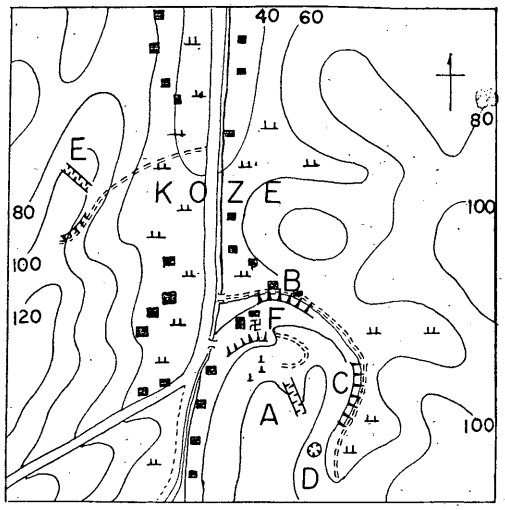
§3.　根尾断層の現在

濃尾地震時にできた水鳥付近の根尾断層は第4図で，周知のものは，水鳥部落の南に北西から南東に延びるA線（写真1）であるが，水鳥部落の北端には東西に延びた断層B（写真2）があり，Aと直交するCは余り知られていないが，地震直後の写真から断定できる．根尾川沿いのDは断層であるという説[6]と，段丘である[7]との二説がある．

根尾断層の南限は，現在の可児町，まえの帷子村古瀬の福田寺内の山ぎりから始まるといわれている[1]．筆者



第4図　本巣郡根尾村水鳥付近の断層



第5図　可児町古瀬付近の断層

は昭和42年10月2日，棚橋嘉市氏の案内を得て，奥村広二，田中政由各技官と共に，次の点について福田寺付近を実地に見学する機会を得た．これを第5図に示す．

第5図のうち，各符号に相当するものは次のとおり，

A．福田寺南の高地の墓地付近の陥没

B．福田寺北の地辷の状況，古老の言によれば，数年前の道路工事の折に，濃尾地震時に埋没した稲の穂らしいものや，「はざ」に使用した竹竿が発見されたという．

C．福田寺東の地辷り，形態が極めて明瞭に残っている．（写真3および4）

D．風穴，入口は石垣が破壊されて入ることができなかった．

E．福田寺から北西方向の陥没

F．福田寺

AとEを結ぶ方向に根尾断層が延びている．

本調査行については，前述の同行の方々および，古瀬在住の尾関市兵衛氏（77才）に案内を戴き，勝野老人（81才）の濃尾地震時の実験談に負うところが多い．写真はいづれも田中政由技官の撮影したものである．

参考文献

1）岐阜測候所（1894）大震報告
2）武者金吉（1950）中央日本特に越前加賀両国における古来の地震活動　験震時報**14**巻別冊．88
3）岐阜地方気象台（1965）岐阜県災異誌
4）東京天文台（1964）理科年表
5）震災予防調査課（1913）震災予防調査会報告第68号(Z)
6）津屋弘逵（1937）水鳥地震断層と付近の地質，地震9, 9.
7）岐阜県教育会（1940）岐阜県大地理

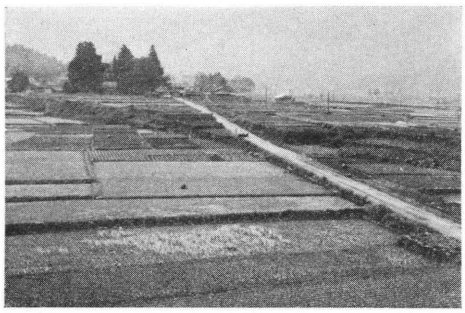


写真1　根尾断層水鳥付近の現状
（第4図A）

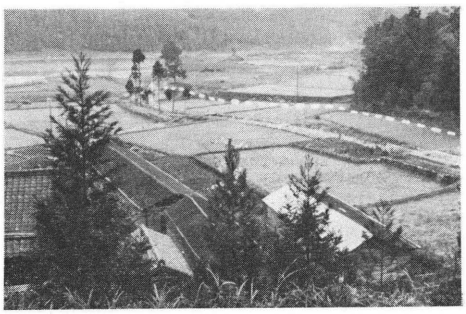


写真2　根尾断層水鳥付近の現状
（第4図B点線）

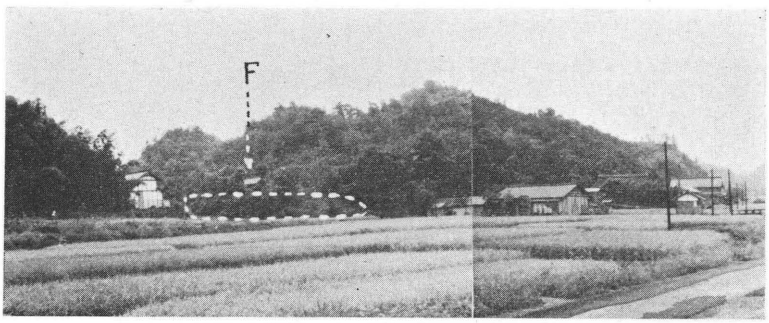


写真3　可児町古瀬福田寺（F）北の地辷り（第5図C点線）

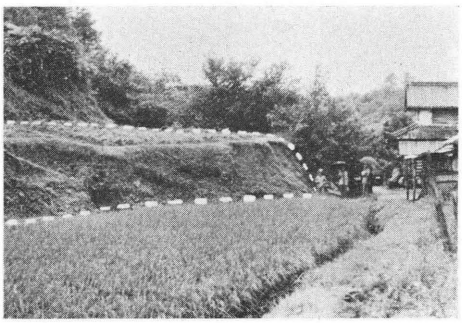


写真4　可児町古瀬福田寺（F）北の地上り
（第5図C点線）